

ごみの有料化に関する資料

令和元年度に行った市民アンケートでは、家庭ごみの有料化をした方が良いかという問いに対して、「どちらともいえない」45.0%が最も多く、「わからない」8.3%と合わせると、中立意見が過半数を占める結果となりました。次に多いのは「思わない」30.8%で、「思う」10.9%の約3倍となり、有料化を望んでいないと見て取れる結果となりました（図 1 参照）。

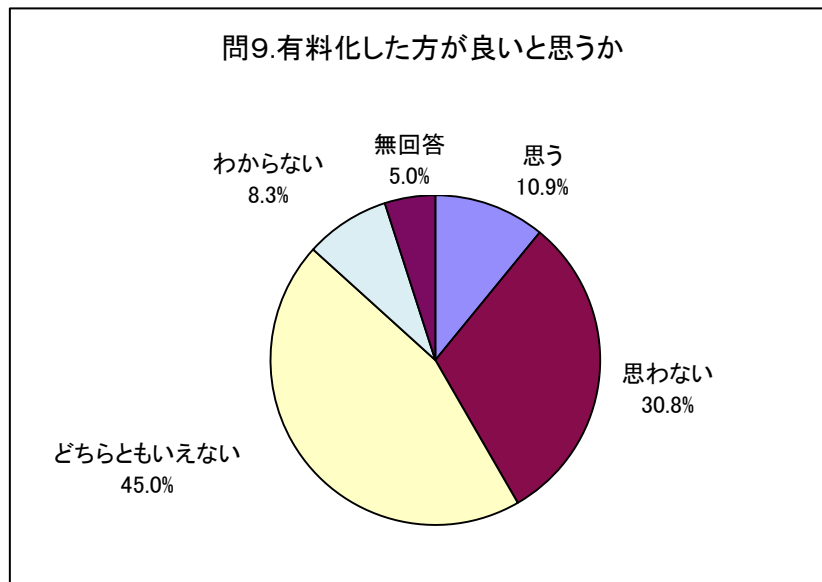


図 1 市民アンケート結果「有料化した方がよいと思うか」

図 2 に有料化を導入した都市の家庭系可燃ごみの経年変化を示します。減少した後横ばいで推移していく新潟市のような例や京都市や北九州市、福岡市のように減少傾向を維持している都市もあります。一方で、御殿場市のように一度減少したものの数年後から増加傾向に転じてしまう都市もあり、リバウンドの可能性もあります。

全体的な傾向としては、有料化実施前後で2割ぐらい発生量が下がった後、それ以上は下がらず、横ばいもしくは若干上昇するといった傾向となっています。

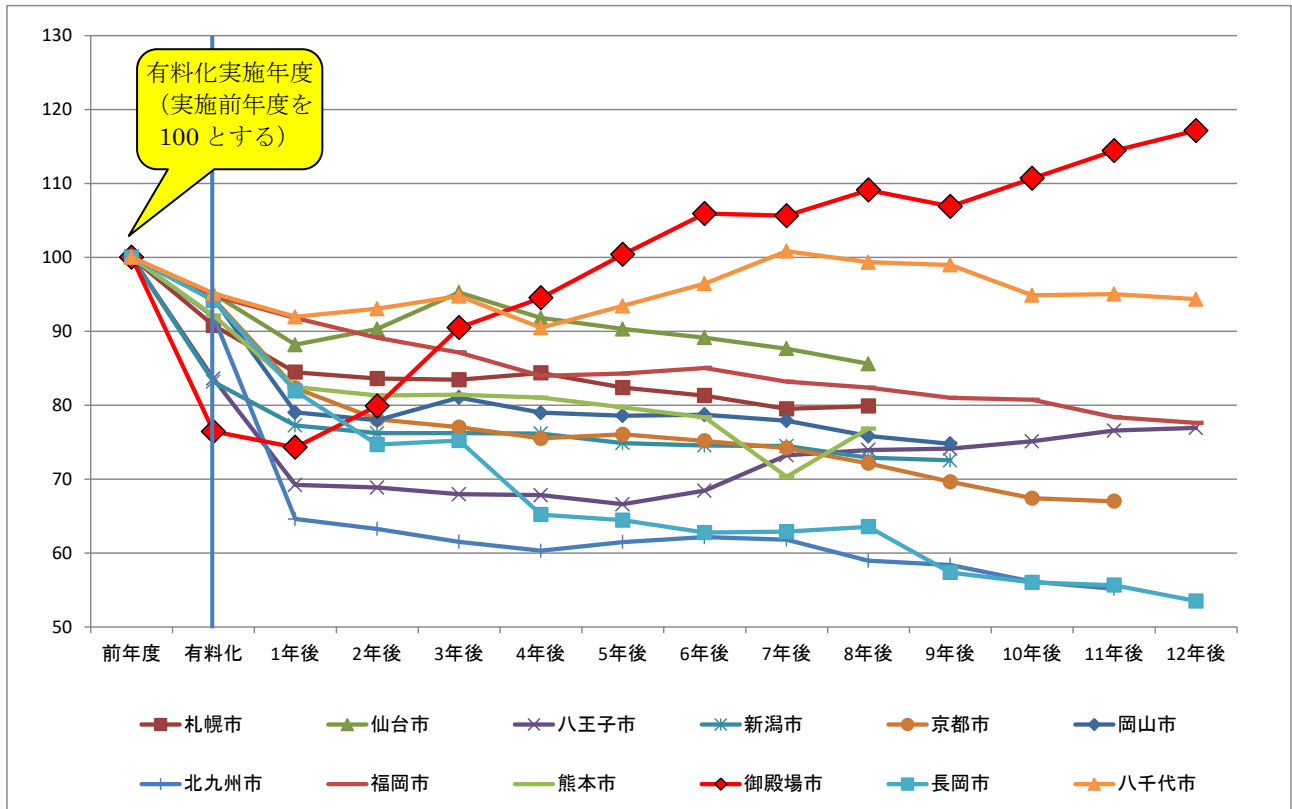


図 2 有料化を導入した都市の家庭系可燃ごみの経年変化(有料化前年を 100 とした)

また、有料化導入のメリットやデメリットは、表 1 に示すとおりです。

表 1 有料化導入のメリットとデメリット

メリット	デメリット
① 手数料を軽減しようとする動機付けによるごみ発生量の抑制	① すべての市民に費用負担を求めるため、家計を圧迫する要因となる
② 可燃、不燃ごみと資源物の手数料を差別化することで、分別を促進し、資源回収量を増加させる	② 一般的には不法投棄の増加が懸念される
③ 排出量の多い市民と少ない市民との費用負担の公平性が確保される	③ 多くのごみを出しても、お金を払っているから良いという考え方を助長することが懸念され、ごみの排出量が増える恐れがある
④ 住民登録していない居住者の費用負担を図る	
⑤ ごみ処理量の減少による処理費用の削減、環境負荷の低減	